



借取由生儀去る三十日  
 午前十時半横濱解  
 纜本月十七日朝四時  
 頃名事少著港吐止  
 以久支那船中亦不  
 痘瘡患少者有之  
 由為二週方の消毒  
 法を受る竹等も之未  
 上陸を許さず船中  
 毎脚少者も唯左  
 談まを車と鼓居以  
 尤も上考船客丈けハ  
 不日上陸を許さる人  
 きやの後あり領を延  
 吾報の多るを以待  
 中屋小横濱之出及  
 波ハ隨分波高く日



中居ル横濱之出帆  
後ハ随分波高く日  
々且甲板亦も若しづ  
打撃有る位ありしか不  
愉快不感したるハ最初  
の三四日也以後ハ気  
分平常不復し中ハ但  
し不愉快不感したる  
最初之三四日と第七日  
之も痰多きを患廢去  
りし事不決然、右之  
次又ハ一身体ハ却て  
健康少赴き面白も  
自り多女肥満したる  
を世見ハ久懜也休神  
被為在也  
一月以来香港より入港  
之汽船支母總之換疫

一月以来香港より入港  
之汽船支舟總之換疫  
規則亦制せり水師奉子  
へ相良我も既少考出  
発未成たりを恐くハ柳  
苗を免水々々人ハと  
痛心之此在ハ然し唯た  
上陸を許されざるの  
みして何の不便も年々之  
ハ有少痛心ハ及~~ハ~~ハ  
と被存~~ハ~~

禁軍下の政況ハ時々吉田  
氏へみても少漏らしと  
少生方と~~ハ~~送~~ハ~~様  
少下命と~~ハ~~新~~ハ~~有  
奉存~~ハ~~出~~ハ~~後二句  
則全く京地の政況り  
遠ざかり種々の空想  
亦起~~ハ~~のみみ~~ハ~~不~~ハ~~

お起しのみまじし不愉  
快之を此上快之を、夜ご  
との夢も大抵、政界之  
近事にお係りゆゑ  
四千里外の夢にお正  
夢におある人しと夢  
乙後方一笑お付去り申

小

乍末筆尊夫人を  
初め快一同様方へ可然  
傳傳輝々とも云々  
後伝、いふく不宣

兼漢堂泊

北京号船中

二月十九日 行旅再拜

大隈公

侍史馬中